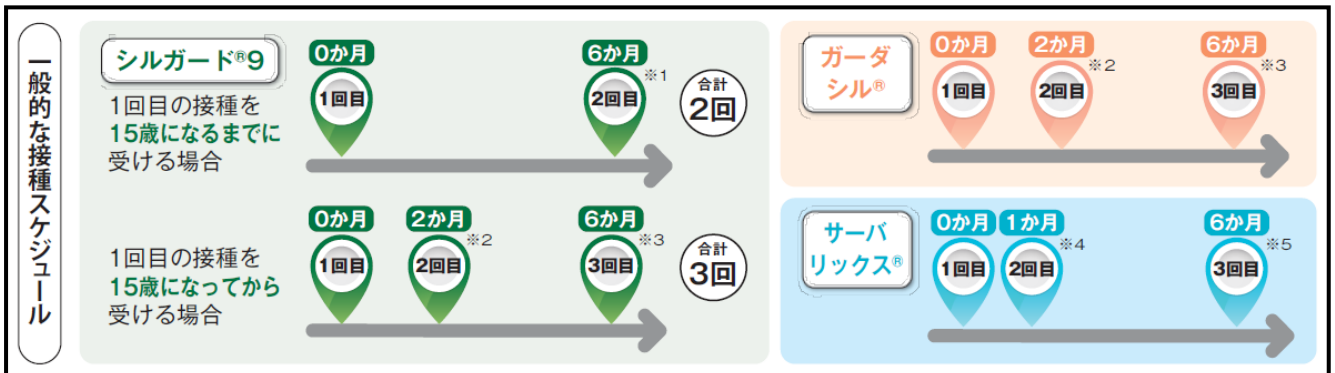
子宮頸がん（ＨＰＶ）予防接種説明書

①**子宮頸がん**は，子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんで，近年 20～30 代で増加し，日本では年間約１１,000 人の女性が発症していると報告されています。子宮頸がんは，初期の段階では自覚症状がほとんどないため，発見が遅れてしまいます。「発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染が発がんに関与していることが明らかにされています。
②発がん性 HPV は，ごくありふれたウイルスで，女性の多くが一生に一度は感染するといわれるウイルスです。多くの場合，ウイルスは免疫によって自然に排除されますが，うまく排除されずに長期間の感染が続くと子宮頸がんを発症することがあります。
③発がん性 HPV には 15 種類ほどのタイプがあり，その中でも HPV16 型と 18 型は，日本人子宮頸がん患者の約 60%から見つかっており、20～30 歳代に限ると約 80%に達します。
④ＨＰＶに感染する可能性が低い１０歳代前半に接種することで，子宮頸がんをはじめとするＨＰＶによる病気の発症をより効果的に予防することができます。

1　ＨＰＶワクチンの概要

定期接種で受けられる子宮頸がん予防ワクチンには「サーバリックス®」,「ガーダシル®」,「シルガード®９」の３種類があります。接種間隔や回数はワクチンの種類によって異なりますので，御注意ください。

●定期予防接種対象
　小学６年生相当から高校１年生相当の女子（標準的接種期間：中学１年生相当）
●キャッチップ接種対象者
　積極的勧奨の差し控えにより，接種機会を逸してしまった女子
　※令和５年度においては，平成９年４月２日から平成１９年４月１日までに生まれた方
●定期予防接種対象ワクチン
　２価（サーバリックス®），４価（ガーダシル®），９価（シルガード®９）



※1　　１回目と２回目の接種は，通常５か月以上あけます。５か月未満である場合，３回目の接種が必要になります。
※2・3　２回目と３回目の接種がそれぞれ１回目の２か月後と６か月後にできない場合，２回目は１回目から１か月以上（※2），３回目は２回目から３ヶ月以上（※3）あけます。
※4・5　２回目と３回目の接種がそれぞれ１回目の１か月後と６か月後にできない場合，２回目は１回目から１か月以上（※4），３回目は１回目から５ヶ月以上，２回目から２ヶ月半以上（※5）あけます。

注意

・３種類いずれも，１年以内に接種を終えることが望ましいとされています。
・すでに発がん性ＨＰＶに感染している人に対して，ウイルスを排除したり，すでに発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり，治療することはできません。
・既定の回数を接種しないと十分な予防効果は得られません。また，同じＨＰＶワクチンで接種完了することを原則としますが，すでに２価または４価ＨＰＶワクチンで定期接種の一部を完了した方が，途中から９価ＨＰＶワクチンへ変更を希望する場合には医師にご相談ください。
・接種の途中で妊娠した場合，接種は継続できません。その後の接種については医師にご相談ください。

2　次の方は接種を受けないでください

①明らかに発熱している方（通常は３７．５℃を超える場合）。
②重い急性疾患にかかっている方。
③ワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって，過敏症（通常接種後３０分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）を起こしたことがある方。
④その他，かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

３　次の方は接種前に医師にご相談ください

①血小板減少症や擬固障がいを有する方。
②心臓血管系疾患，腎臓疾患，肝臓疾患，血液疾患，発育障がいなどの基礎疾患のある方。
③過去に予防接種で接種後２日以内に発熱，全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方。
④過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方。
⑤過去に免疫状態の異常を指摘された方，もしくは先天性免疫不全症と診断された親近者がいる方。
⑥**現在，授乳中の方・妊娠している，または妊娠している可能性（生理が遅れているなど）のある方。**
⑦別の種類のＨＰＶワクチン接種を受けたことがある方。

４　副反応について

	サーバリックス®	ガーダシル®	シルガード®９
頻度 10%以上	かゆみ、注射部位の痛み・腫れ、胃腸症状（吐き気、下痢、腹痛など）、関節の痛み、頭痛、疲労	注射部位の痛み・赤み・腫れ	注射部位の痛み・赤み・腫れ
頻度 1～10% 未満	じんましん、注射部分のしこり、発熱、上気道感染など	発熱，注射部位のかゆみ・出血・不快感，頭痛	発熱，注射部位のかゆみ・出血・不快感，頭痛
頻度 1%未満	注射部分の知覚異常，しびれ感，全身脱力	注射部のしこり，手足の痛み，腹痛，白血球数増加など	注射部のしこり，手足の痛み，腹痛など
頻度不明	四肢痛，失神・血管迷走神経反応（ふらふら感，冷や汗，血圧低下など），AST（GOT），ALT（GPT）の上昇等，ぶどう膜炎，角膜炎，リンパ節症	無力症，寒気，疲れ，だるさ，血腫，気を失う，体がふらつくめまい，関節痛，筋肉痛，嘔吐，リンパ節の腫れなど	無力症，寒気，疲れ，だるさ，血腫，気を失う，体がふらつくめまい，関節痛，筋肉痛，嘔吐，リンパ節の腫れなど
右のような症状が疑われた場合は，すぐに医師に申し出てください。	重い副反応として、まれに、 １）ショック，アナフィラキシー（血管浮腫・じんましん・呼吸困難など） ２）急性散在性脳脊髄炎（けいれん，運動障がい，意識障がいなど） ３）ギラン・バレー症候群（足から体の中心へ向かうまひなど） があらわれることがあります。	重い副反応として，まれに， １）過敏症反応（アナフィラキシー反応や気管支痙攣〈発作的な息切れ〉，じんましんなど） ２）ギラン・バレー症候群（足から体の中心へ向かうまひなど） ３）血小板減少性紫斑病（鼻血，歯ぐきの出血，月経出血の増加など） ４）急性散在性脳脊髄炎（けいれん，運動障がい，意識障がいなど）があらわれることがあります。	重い副反応として，まれに， １）過敏症反応（アナフィラキシー反応や気管支痙攣〈発作的な息切れ〉，じんましんなど） ２）ギラン・バレー症候群（足から体の中心へ向かうまひなど） ３）血小板減少性紫斑病（鼻血，歯ぐきの出血，月経出血の増加など） ４）急性散在性脳脊髄炎（けいれん，運動障がい，意識障がいなど）があらわれることがあります。

５　予防接種健康被害救済制度

万が一，子宮頸がん予防接種による重篤な健康被害が発生し，被害者からの健康被害救済について，厚生労働省が因果関係を認定した場合，国の定める医療費，医療手当，年金等の支給を受けることができます。

６　接種後の注意

①接種後は強く揉まず，軽く押さえる程度にとどめてください。
②接種後に，注射による恐怖，痛みなどが原因で，気を失うことがあります。気を失って転倒してしまうことをさけるため接種後すぐに帰宅せず，３０分程度は接種した医療機関で座って安静にし，医師とすぐに連絡がとれるようにしておいてください。
③接種した後に注射した部位が腫れたり，痛むことがありますが，これは，体内に備わっている抵抗力が注射した成分を異物として認識するためにおこります。通常は数日間程度で治ります。
④接種後は，接種部位を清潔に保ってください。接種した日の入浴は問題ありません。
⑤接種翌日までは，過度な運動は控えてください。
⑥接種後１週間は症状に注意し，気になる症状があるときは医師にご相談ください。
⑦予防接種によってすべての発がん性ＨＰＶによる病変を防げるわけではありません。早期発見するために「子宮頸がん検診」の受診がとても重要です。宇都宮市では，２０歳以上の女性（市民）であれば，誰でも受診が可能です（１０代の公的な検診制度はありません）。２０歳を過ぎたら，定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

◎予防接種に関するお問い合わせは・・・